

1P168

## マラウィにおける子供の食の安全保障確立への取り組み

浦部 大策

聖マリア病院 国際事業部

### 【初めに】

2019年の本学会で報告したように、マラウィの農村部では自営農業での収穫物を日常食材の供給源としているが、栽培している種類が限定的であるため調達できる食材の種類は少なく、また村内に食材が購入できるような店もないため、日常の生活圏の中で住民が入手できる食材は多様性が非常に乏しい。これが子供の栄養不良の根本原因になっているのではないかと推測される。子供の栄養不良の問題を改善するには発育に必要な多様な食材を確保できる環境を成り立たせることが重要と考え、現在当院では村人の生活圏における食の安全保障を確立する活動に取り組んでいる。

### 【活動】

活動地域の土壌や気候風土に適した作物で、地域住民の食生活の中で摂取不足が指摘されている作物を選択して農民に栽培を推奨し、日常生活の中で入手可能な食材の種類を増やした。魚（乾燥）、油、牛乳類など市場での購入が必要な食材を購入しやすくする為に、現金収入に繋がりやすい作物の栽培も推奨した。また、動物性蛋白確保のために養鶏を指導した。更に、これら新規に入手可能になった作物の摂食を促す為、母親グループに新しいレシピの紹介を行った。低体重に陥った児は家庭訪問し、個別の栄養指導を行い体重の変動をフォローした。

### 【結果】

対象地域の村でニンジン、大豆、ピーマン、ナス、ビート、オレngスイートポテト、ニンニクなどの野菜類、一部の村では養鶏による卵の生産も可能になり、生活圏内で入手できる食材の種類が大きく増えた。これら食の安全保障にかかわる状況の改善との関係を判断するには時期尚早だが、Growth Monitoringで低体重を指摘された児の総数は減少傾向がみられている。また、家庭訪問を受けた33例中17例（51.5%）が平均4.5か月のフォローアップで年齢相応の体重に回復していた。

### 【考察】

マラウィ農村部では生活圏の中で入手できる食材は非常に少なく、健全な成長に必要な栄養を確保するという食の安全保障Availability,Accessibilityが確立できていない。しかし、今回の我々の取り組みを通して、マラウィの農業は改善できる余地が大きく、生活圏の中での食の安全保障を確立できるような十分な潜在力を持っている事を示す事ができたと考えている。日常の生活圏の中で食の安全保障が確立されれば、マラウィ自身の手で子供の栄養障害を改善する事も十分可能と考えられる。